

(資料42) 所内公募型研究制度の実施状況

1. 平成16年度奨励研究実施状況

平成16年度においては、基盤的研究30課題、3課題の計33課題を実施した。

タイプ	課題代表者	研究課題名	研究期間	16年度 予算額 (千円)	内部評価結果					
					A の数	B の数	C の数	D の数	E の数	
基盤的研究 (30課題)	(平成16年度継続課題 評価対象8課題 採択7課題)									
	奥田 敏統	レーザープロファイラを用いた熱帯陸域生態系の長期観測	14~16	5,000	5	9	1	2		
	永田 尚志	ヨシ原管理が野生生物および生態系機能に与える影響に関する研究	14~16	3,500	3	9	2	1		
	高橋 善幸	北東ユーラシアの森林を代表するカラマツ林生態系の 대기二酸化炭素安定同位対比分別効果の時間的変動とその環境応答に関する研究	15~16	2,000	1	9	4	1		
	宮下 衛	希少トンボ種の保全遺伝学的研究	15~16	3,000	7	6	4			
	高村 典子	釧路湿原達古武沼の自然再生に向けての調査研究	15~16	3,000	1	11	2	2		
	中山 忠暢	釧路湿原流入河川の再蛇行化による湿地生態系の回復可能性評価	15~16	4,000	10	6	1			
	矢部 徹	藻場根圏における酸化還元環境と再生技術としての酸素管の活用	16~18	3,000		8	5			
	(平成16年度新規課題 提案課題41課題 採択23課題)									
	斉藤 拓也	水期-間水期サイクルにおける大気中塩化メチル濃度の変遷に関する研究	16	2,500	3	10	2	1		
	小林 弥生	ヒ素代謝における新しい反応機構の証明	16	3,000	8	7	1	1		
	伊藤 智彦	RNAi法を利用したダイオキシンによる免疫抑制に関わる原因遺伝子の同定	16	3,000	1	11	5			
	北條 理恵子	注意欠陥多動性障害(ADHD)検出のためのラット幼若期学習行動実験系の確立	16	3,000	8	2	6	1		
	中村 宣篤	HoxB3遺伝子による気道上皮クララ細胞への分化促進に及ぼす細胞外基質の影響	16	2,400	3	10	1	2		
	森野 勇	遠隔計測分光パラメータの精密取得・評価に関する研究	16	3,000	4	7	4	2		
	佐藤 圭	高速液体クロマトグラフ-質量分析法を用いたトルエンからの光化学エアロゾル生成の反応メカニズムの検討	16	2,000	2	7	7	1		
	佐藤 啓市	負イオン化学イオン化質量分析法を用いたC1-C6有機硝酸類の高感度測定法の開発	16	3,000	3	7	7	1		
	青野 光子	植物のオゾン傷害機構における植物ホルモンのシグナリング	16	3,000	7	7	2	1		
	矢部 徹	藻場根圏における酸化還元環境と再生技術としての酸素管の活用	16~18	3,000	3	9	5	2		
	保原 達	陸上生態系土壌中溶解態有機物(DOM)における細菌由来画分の把握	16	3,000	9	8		1		
	齋藤 尚子	衛星搭載センサーの可視・赤外スペクトルデータを用いた夏季成層圏硫酸量および粒子粒径推定	16	2,400	5	6	6	1		
	中宮 邦近	農薬による植物成長異常に關与する土壤微生物	16	2,000	4	7	4	2		
	西村 典子	コプラナーポリ塩素化ビフェニルの甲状腺ホルモンへの影響評価のための新たな指標に関する研究	16	3,000	6	6	4			
	伏見 暁洋	自動車排ガス中VOCsの高精度測定法の開発	16	3,000	3	11	2			
	平井 康宏	鉛バッテリーロー推移の廃棄・収集行動モデルによる再現解析	16	2,150	2	10	3	1		
	橋本 征二	循環型社会のイメージにはいくつかのパターンがあるか?	16	2,000	2	8	7	1		
	南齋 規介	持続可能な消費に向けた家計消費における財・サービスの環境負荷低減特性に関する基礎分析	16	2,000	5	8	3			
	石垣 智基	有機性廃棄物と焼却残さの混合による水素発生メカニズムの解明	16	3,000	8	6	3			
	高橋 真	有機スズ化合物の一斉分析法開発と循環利用過程における挙動に関する基礎的研究	16	3,000	2	8	5			
	鈴木 一寿	有害化学物質の毒性評価用の包括的体内動態モデル開発	16	3,000	4	5	6	2		
	川嶋 貴治	鳥類における異種間生殖巣キメラの作出に向けて	16	3,000	6	9	1	1		
	中路 達郎	C3/C4植物の判別に向けた植物生理的リモートセンシング	16	2,500	6	9	3			
					小計	85,450				
長期モニタリング (3課題)	(平成16年度評価対象課題4課題 継続3課題 採択3課題)									
	横内 陽子	南半球におけるVOC(揮発性有機化合物)のベースラインモニタリング	13~17	5,600	15	4				
	中村 泰男	有明海等における高レベル栄養塩濃度維持機構に関する研究:適正な浅海域管理をめざして	14~18	6,000	15	4				
	富岡 典子	霧ヶ浦エコトーンにおける生物群集と物質循環に関する長期モニタリング	15~19	6,000	10	5	1			
				小計	17,600					
				合計	103,050					

## 2. 平成16年度後期奨励研究実施状況

研究を進めていく途上で生じた研究課題に対応するため、15年度後期に実施する所内奨励研究として  
基盤的研究8課題を実施した。

タイプ	課題代表者	研究課題名	研究期間	平成16年度 予算額 (千円)	内部評価結果					
					A の 数	B の 数	C の 数	D の 数	E の 数	
基盤的研究 (8課題)	(平成16年度評価対象課題11課題 採択8課題)									
	崔 星	ヒ素の生体影響においてDNAメチル化率は分子マーカーとして使えるのか	16~17	1,100	2	9	7			
	浦川 秀敏	東京湾内湾での窒素循環に影響を与える微生物群集に関する研究	16	1,500	6	6	5	2		
	児玉 圭太	蛍光色素リポフスチンによる水生甲殻類の年齢推定法の確立	16~17	830	8	9	2			
	平井 慈恵	メダカ及びサケ・マス類の性分化における物理的環境要因の影響に関する研究	16~17	1,000	1	14	4			
	渡邊 英宏	興奮性および抑制性神経伝達物質のin vivo同時濃度定量化法の研究	16~17	1,000	4	11	4			
	宇田川 弘勝	霞ヶ浦における湖水白濁化現象の機構解明	16~17	1,000	5	8	5			
	西川 潮	日本固有ザリガニの保全遺伝学的研究:ミトコンドリアDNAに基づく遺伝的変異の解明と祖先個体群の特定	16~17	700	3	11	4			
	樋渡 武彦	東京湾に出現する外来大型二枚貝ホンビノスガイの侵入メカニズムと水質浄化能の研究	16~17	1,200	5	7	4	1		
合計				8,330						

【評価】

- A 大変優れている
- B 優れている
- C 普通(研究の実施は可とする)
- D やや改善が必要
- E 大幅な改善が必要

### 3. 平成16年度特別研究実施状況

平成16年度においては、新規2課題を含む8課題を実施した。

(新規採択分)

課題代表者名	研究課題名	研究期間	16年度 予算額 (千円)	内部評価結果						外部評価結果					
				A の数	B の数	C の数	D の数	E の数	評 価 人 数	A の数	B の数	C の数	D の数	E の数	評 価 人 数
野原 恵子	トキシコゲノミクスを利用した環境汚染物質のヒト・生物への影響評価法の開発	16～18	25,000	8	7	1			16	5	8	1			14
今井 章雄	有機物リンケージと生物機能に基づいた湖沼環境改善シナリオの提言	16～18	20,000	6	10	3			19	2	8	3			13

(継続分)

課題代表者名	研究課題名	研究期間	16年度 予算額 (千円)
藤巻 秀和	有機化学物質情報の生体内高次メモリー機能の解明とそれに基づくリスク評価手法の開発に関する研究	15～17	20,000
柴田 康行	有機フッ素化合物等POPs様汚染物質の発生源評価・対策並びに汚染実体解明のための基盤技術開発に関する研究	15～17	20,000
野原 精一	湿地生態系の自然再生技術評価に関する研究	15～17	20,000
高野 裕久	アレルギー反応を指標とした化学物質のリスク評価と毒性メカニズムの解明に関する研究 - 化学物質のヒトへの新たなリスクの提言と激増するアトピー疾患の抑圧に向けて -	14～16	20,000
畠山 史郎	大規模広域大気汚染に関する国際共同研究	13～17	13,100
田村 憲治	中国における都市大気汚染による健康影響と予防対策に関する国際共同研究	12～16	13,600

【評価】

A: 大変優れている

B: 優れている

C: 普通(研究の実施は可とする)

D: やや改善が必要

E: 改善が必要